

アルモドバル映画で輝いた歌たち

«Olé» 15 de mayo, 2010

うた：峰 万里恵 ギター：高場 将美

I

1. ボルベール (帰郷) *Volver* -tango-

作詞：アルフレード・レペーラ *Alfredo Lepera* 作曲：カルロス・ガルデル *Carlos Gardel* (アルゼンチン)

*2006年の映画『ボルベール (帰郷) *Volver*』で、エストレージャ・モレンテが、ペネローペ・クルースの吹き替えでうたった(ギター伴奏モントジータ)。

この曲をスペインで有名にしたのは、フラメンコの歌手チャノ・ロバート(ブレリーアのリズム)。

元来は、1934年に、タンゴの歌いかたを発明した大歌手ガルデルが、自身の主演映画の挿入歌としてつくった。

わたしの目には見える気がする、遠くでわたしの帰り道を定めている光たちのまたたきが。そのおなじ光たちが、かつては青白い反映で、痛みの深い時間を照らしていたのだ。帰るのをのぞまなかったのに、人はいつでも最初の愛に帰ってゆくもの。あの古い通りで、いつか、こだまが言った——「あの人の命はおまえのもの、あの人の愛はおまえのもの」 そのとき、あざけるように見下ろしていた星たちが、きょうは冷ややかに、帰って行くわたしを見ている。

わたしはこわい、わたしの人生を正面から見つめようとして戻ってくる過去と出会うのが。わたしはこわい、数々の思い出のくさり、わたしをしぼりつける

夜が。でも逃げてゆく旅人は、遅かれ早かれその歩みを止める。そして、すべてを破壊する忘却が、たとえわたしの古い夢を殺してしまったとしても、わたしはとてもしらばいだけれど希望を隠し持っている。それがわたしの心の財産のすべて。

帰っていく……額(ひたい)は枯れ、「時」の雪がわたしのこめかみを銀色に染めた。感じる……人生は風のひと吹きだと、20年は「無」にすぎないと、熱にうかされたまなざしが影の中をさまよいつつ、あなたの名を呼んでいるのを。

生きてゆく……魂は甘い思い出にしがみついたまま。その思い出にふたたびわたしは泣く。

2. 月の光 *Luz de luna* -pasillo-

作詞作曲：アルバロ・カリージョ *Álvaro Carrillo* (メキシコ)

*1993年の映画『キカ *Kika*』のサウンドトラックに使用。コスタリカ出身でメキシコで長く活動する女性歌手、チャベラ・バルガスの録音が使われた。老いてほとんど仕事が無くなっていったチャベラが、ふたたび有名になったのは、かねてから彼女のファンだったアルモドバルの後援のおかげだった。

曲は、古くからメキシコのユカタン半島で愛されているロマンティックなスタイルで、70年代の若いシンガー・ソングライターがつくった。

わたしは月の光がほしい、わたしの悲しい夜のために。あなたがわたしに運んでくる夢を神々しいものだと感じるために、あなたをわたしのものだと感じるために。どんなひとよりも わたしのものだと。

だって、あなたが去ってしまってから、わたしは月の光をもったことがなかった。

もしあなたがもう帰ってこないのなら、わたしの、いなかの娘よ。わたしの愛する森林、悲しんでいる寒い森に、すくなくとも、あなたの思い出が、わたしの霧の上に光をそそいでほしい。

だって、あなたが去ってしまってから、わたしは月の光をもったことがなかった。

わたしはあなたの綱を感じたい、かぎ爪のように。その綱がわたしをおぼれさせる、痛みの浜辺に。そしてわたしはあなたの綱を感じる、わたしの物言わぬ夜に引きずって。その夜は満月であってほしい、どんな夜よりも青く。

だって あなたが去ってしまってから、わたしは月の光をもったことがなかった。

3. ソイ・インフェリース (わたしは不幸な人間) *Soy infeliz* -canción ranchera-

作詞作曲：VENTOURA・ROMERO Ventura Romero Armendáriz (メキシコ)

＊1987年の『神経衰弱ぎりぎりの女たち *Mujeres al borde de un ataque de nervios*』サウンドトラックで、メキシコ最高の女性歌手のひとりローラ・ベルトランの録音が使われた。

曲は1940年代はじめに、メキシコ男性の理想像だった、歌手で映画スターのホルヘ・ネグレーテが有名にしたもの。

わたしは不幸な人間。あなたが私を愛していないと知っているのだから、なんのために、これ以上こだわる必要がある？ 幸せに生きなさい、わたしの大事な人。あなたがわたしにくれた愛を、わたしはいつまでも感じてゆくつもりだから。

わたしは不幸な人間。あなたがわたしを愛していないから、わたしは死ぬに違いないと、あなたが思うの

なら。……わたしにもう1杯注いでください、酒場の主人、わたしが払います、この悩みを静めるために。

幸せに生きなさい、あなたの夢の世界に。もう考えないで、あなたの愛と、あなたの数々の裏切りのことは。

わたしは不幸な人間。あなたがわたしを愛していないから、わたしは死ぬに違いないと、あなたが思うのなら。……わたしに4杯注いでください、酒場の主人、わたしが払います、この悩みを静めるために。

4. ア・シエーガス (暗闇の愛) *Aciegas* -canción española-

作詞：ラファエル・デ・レオン Rafael de León 作曲：マヌエル・キローガ Manuel Quiroga (スペイン)

＊2010年の『抱擁のかけら *Los abrazos rotos*』のエンドクレジットのバックに、フラメンコ歌手ミゲール・ポベダの歌(編曲指揮アルベルト・イグレーシアス)で特別録音されて流された。

もとは、おそらく1940年代のスペイン歌謡で、このジャンル最高のスター女性コンチータ・ピケールがうたったもの。ポベダは原曲の歌詞を一部削除して、男性用に直している。ここではコンチータ版の全曲をうたいます。

わたしは、たくさんの夜ごと感じていた、もう朝も近くなって、部屋にあなたの足音を。神様のおかげ、あなたは帰ってきた。そして悪いことはなにもあなたには起こらなかった。

あなたの手には薫り、カーネーションの匂いが……でもわたしは冗談にしておいた、わたしはあなたの愛の女奴隷だったから。わたしは楽しんで、ゲームみたい。そしてわたしはあなたに言った、盲人のように両目を閉じて――

何があったのか、わたしに教えてはいけない。盲目となってわたしはあなたを信じてきた。わたしは手探りで世界に行く、あなたを知ってから。わたしは目隠しの布を巻いている、信仰を描いた絵のように。見えないで信じつつけているというこの天国ほど痛いものはほかにはない。

わたしの心はわたしに嘘をつかない。そしてあなたの慈悲に身をゆだねる。静かに眠りなさい、わたしと一心同体の人、わたしは盲目となってあなたを愛して

いる。

どんな手が、ある朝開いたのか とつぜんわたしの扉を。何がそうしたのか、わたしのひたいの目隠しを千のかけらに切り刻んだのは、まるでかみそりを使ったように。人々はわたしの盲目を取ってくれた、同情のナイフで。そしてきょう、ひとりぼっちで歩道を行く、手を引く子どものいないわたしの心。

そのすべては嘘、わたしは断言する、証明する。そしてわたしはあなたに言った、ふたたび自分に目隠しをしたくて――

何があったのかわたしに教えてくれなくていい。わたしはあなたのことは、ずっと知ってきた。手探りで世界に行く者は、方角をなくす。わたしは自分の両目に刺そう、クリスタルのピンで。あなたと、あなたの真実に、面と向かって顔を合わせないために。

あなたは夜も昼も嘘をつく。そしてわたしに偽りの誓いを立てるまでになった。嘘をつきつづけなさいわたしの魂の人、わたしが盲目となってあなたを愛するために。

5. 天国で待っていて *Espérame en el cielo* -bolero-

作詞作曲：パキート・ロペス Paquito López Vidal (プエルトリコ)

＊1986年の映画『欲望の法則 *Ley de deseo*』のサウンドトラックに、イタリアの女性歌手ミーナの録音が使われた。もとは、1950年代にニューヨークで活動したミュージシャンの作で、ラテンアメリカ全体で大ヒット。

空でわたしを待っていてください、心の人、もしあなたが先に行ったら。わたしを待っていてください、すぐにわたしも行くでしょう、ふたたび始めるために。

わたしたちの愛はこんなに大きく、決して終わらない

ほど大きい。そして人生はこんなに短く、わたしたちの恋物語には足りない。

だからわたしは、あなたにお願いします、わたしを空で待つように。そして、そこ、綿の雲のあいだで、わたしたちは わたしたちの巣をつくりましょう。

6. ロ・ドワード (わたしはそれを疑う) *Lo dudo*

作詞作曲: チューチョ・ナバーロ *Chucho Navarro* (メキシコ)

*やはり、『欲望の法則』で、トリオ・ロス・パンチョスの大ヒット・レコードが流された。

わたしは、それを疑う、わたしがあなたを愛しているほどに、あなたがわたしを愛するようになることを。わたしの愛よりも、もっと純粋な愛を見つけることを。

あなたは見つけるだろう、愛のない千のアヴァンチュールを。でもすべてのアヴァンチュ

ールが終わった後で、あなたには痛みだけが残るだろう。あなたは快樂で熱狂できるだろう。でも、わたしがあげた夢のような、真心からの夢はもらえない。

わたしは、それを疑う、あなたが、わたしの愛よりも、もっと純粋な愛を見つけることを。

II

1. わたしのことを思って *Piensa en mí* -bolero-

作詞作曲: アグスティーン・ララ *Agustín Lara* (メキシコ)

*1991年の『ハイヒール *Tacones altos*』で、ルース・カサルがうたっている。映画用の特別録音のように思われる。ギターの前奏は、チャベラ・バルガスのうたった録音をそっくりそのまま借用している。わたしたちは、作者がピアノを弾きながらうたっている録音を出発点にしました。

もしあなたが深い悩みをもつなら、わたしのことを思いなさい。もしあなたが泣きたいのなら、わたしのことを思いなさい。

もうごぞんじのように、わたしは、あなたの至高のイメージを崇拝している。あなたの幼いくちびる。こんなに子どもなのに、わたしに罪を犯すことを教えた。

わたしのことを思いなさい、あなたがだれかにキスするとき。あなたが泣くときもまた、わたしのことを思いなさい。

あなたがわたしの命を取りたくなったら、わたしにはそれはいらぬ。まったく欲しくない、まったく人生はわたしの役には立たぬ、あなたなしでは。

2. 最後に飲み干して *En el último trago* -canción ranchera-

作詞作曲: ホセ・アルフレード・ヒメネス *José Alfredo Jiménez* (メキシコ)

*1995年の『私の秘密の花 *La flor de mi secreto*』のサウンドトラックに、チャベラ・バルガスの録音が使われた。彼女は、この曲の作者ともたいへん仲良しだった。

このボトルを、わたしといっしょに飲んでしまいなさい。そして最後の1杯で出て行こう。わたしはあなたに忘れられることがどんな味がするのか知りたい、わたしの両目をあなたの手でふさがれることなしに。

今夜わたしは、あなたにお願いはしない。今夜あなたはほんとうに行ってしまう。あなたがわたしをもう愛していないのを感じないようにして、あなたと離れるのは、なんとつらいことだろう。このボトルを、わたしといっしょに飲んでしまおう。そして最後の1

杯で、あなたはわたしにキスする。この場の証人がいないことを期待しよう。あなたが恥ずかしくなるといけないから。もしいつの日か思いがけず、ふたりがぶつかったら、挨拶しないでください。ただ握手するだけに。……あとは勝手に噂させておけばいい。

年月はわたしに教えてくれなかった。わたしはいつもおなじ過ちを犯す。またまたおなじ人たちと乾杯して、おなじ悩みに泣く。このボトルをいっしょに飲んでしまおう。そして最後の1杯で出て行こう。

3. ククルククー・パローマ *Cucurrucucú paloma* -huapango-

作詞作曲: トマース・メンデス *Tomás Méndez Sosa* (メキシコ)

*2002年の『トーク・トゥ・ハー *Hable con ella*』で、ブラジルの歌手カエターノ・ヴェローゾが特別出演してうたった。もとはメキシコの女性ローラ・ベルトラーンが有名にした曲。

人は言う、彼は毎晩ただ泣くばかりだったと。眠らず、ただ飲むばかりだったと。人は誓って言う、空さえも、彼の泣き声を聞いてふるえたと。彼女ゆえに、どんなに悩んだことだろう。死ぬときも、彼女の名を呼びながら行った。

とある1羽の悲しげな鳩が、朝とても早くから彼女

に歌いに行く、村はずれの小さな家に。人は言う、あの派とは彼の魂にほかならぬと。まだ、あの不幸をもたらす女が帰ってくるのを待っているのだと。

ククルククー……鳩よ、泣くな。石ころなんか、決して、愛のことなどわかるものか！ 鳩よ、もう彼女のことを泣くな！

4. アイ・アモール *Ay, amor* -bolero-

作詞作曲：ボラ・デ・ニエーベ *Bola de Nieve* (キューバ)

*『私の秘密の花』のサウンドトラックで、作者が自演(うたとピアノ)。

愛するひと、わたしは知っている、あなたが、わたしの愛をもっていこうとしているのを。そして、あなたはまた、わたしの魂をもっていくことができるのを。

もしわたしの魂をもっていくのなら、わたしの痛みももって行ってください。なぐさめないわたしの気

持ちをすべて、あなたの中に入れてもって行ってください。そしてまた、わたしの悩みのなさを。

愛するひと、わたしに命を残してくれるのなら、わたしに残してください、感じる心もまた。

もしわたしに残るものが痛みと命だけなのなら、愛するひと、わたしを生かしておかないでください。

5. わたしたちの愛はこわれた *Se nos rompió el amor*

作詞作曲：マヌエル・アレハンドロ *Manuel Alejandro* (スペイン)

*『キカ』のサウンドトラックにて、フラメンコ女性フェルナンダ・デ・ウトレーラがブレリーアのリズムに乗せてうたっていた。もとは、現代スペイン歌謡のトップ・スター、ロシーオ・フラードが1980年代末に出した、スーパー・ヒット曲。

わたしたちの愛はこわれた、使いすぎて。制限のない、あれほどの狂った抱擁で。1ステップごとに、自分たちを完全に与えてしまったので。わたしたちの手に残っただけ、ある日。

わたしたちの愛はこわれた。あんなに壮大なものだったのに、あれほどの美は決して存在できなかった。あんなに美しいものたちはほとんどつづかない。1輪の花は決して、2つの春をもたなかった。

わたしはあなたを食事にした。ながいあいだ、わたしたちは生きてきたまま、お互いをむさぼった、野獣のように。決して一度もわたしたちは考えなかった、冬のことを。でも冬はやって来る、ほしくなくても。

そして ある灰色の朝、抱き合ったとき、わたしたちは、ひび割れる音を聞いた、冷たく、乾いて。

わたしたちは目を閉じた。そして思った——わたしたちの愛はこわれた、使いすぎて。

6. キサス・キサス・キサス *Quizás, quizás, quizás* -bolero-

作詞作曲：オズバルド・ファレーズ *Osvaldo Farrés* (キューバ)

*2004年の『バッド・エデュケーション *Mala educación*』で、スペインの60年代の歌う映画スター、サラ(愛称サリータ)・モンティエールのこの曲の録音に合わせて、ゲイのアーティストがソロのショーをするという、ヒネリの効いた使われかただった。曲は1947年発表のラテン・ミュージックのスタンダードだが、50年代に世界的に有名にしたのはアメリカ人ナット・キング・コールだった(なまりのあるスペイン語が、変な魅力を発揮)。

いつもわたしは あなたにたずねる——何? いつ? どんな? どこ? あなたはいつもわたしに答える——キサス(たぶん)、キサス……。

あなたは時間をむだにしつづけている、考えながら、考えながら。まったくあなたの好きなように、いつま

で、いつまで?

そしてこのようにして日々が過ぎる。そしてわたしは絶望しつづけ、そしてあなた、あなたは答えつづけ——キサス、キサス……

ごいっしょに時間をすごしていただきありがとうございました。
またお会いするのを楽しみにしております。今後どうぞよろしく。

選曲・構成：峰 万里恵
プログラム作成：高場 将美